□8月17日説教(隅野徹牧師)短縮版

「悪の道を離れよ」(ヨナ書3:1~10)

ヨナ書3章はとくに、自分の同胞だけを神が大切にされるのではない、ということ強く教えるものだとは感じます。自分と民族や国籍、また考えの違う人々をも大切な命として、悪から救おうと神は考えておられるのだということをお我々に教えています。併せて、そのようなあなたと違いをもった人を救うために、あなたを用いられるかもしれないという深いメッセージが今回、私には伝わってきました。

暴力や略奪などのニネベの罪を指摘し、悔い改めるように遣わされたのは、全く違う価値観に生きていたイスラエル人の預言者ヨナでした。もともとヨナは違う価値観に生きる者に対して、愛をもって接することができない、悪や滅びから救われてほしいと思うことができない人でした。そんな弱さは全ての人間がもっています。しかし、神は「仕方ない」で諦めるのではなく、違いを超えてすべての人に、へりくだって罪の悔い改めをすることと、そこに神の愛の赦しによる救いが来ると私たち自身が伝える、行動することの大切さを教えておられると私は信じています。

教会の中にいて同じ信仰をもち、同じ価値観に生きる者同士なら、間違いを指摘したり、より神の御心に生きるために必要なアドバイスをすることは、比較的容易かもしれません。しかし全く信仰心がない、神に対しての畏れがない人に対して、「あなたにも罪がある。だから身を低くして悔い改めましょう。」と愛をもって伝えるのは、本当に大変なことです。私自身も、十分にそれができているとはいえません。しかし、対立と分断が深まる今の社会であるからこそ、福音を伝えやすい人だけに伝えていけばよいという姿勢から一歩進んで、違いをもった人たちにも、神の福音、悔い改めの招きを伝えていくことが大切なのではないでしょうか。(終)